

親子聖書日課

NO.1631 2019.12/29-2020.1/4 名前

[日]人生長く生きたとしても、神から見れば「手の幅ほどのもの」に過ぎませんから、あくせく生きる必要はありません。永遠の命を与えて下さる主にこそ望みがありますから、祈りに時間を注ぐべきです。「御もとに身を寄せる者」を求めています。

[月]主は苦しむ人の叫びを聞かれるだけではありません。身を乗り出して、泥沼から引き上げて下さるのです。主の十字架と復活は、罪と死の泥沼から私達を引き上げて下さったのです。だからこそ「新しい歌」として、主を賛美できるのです。

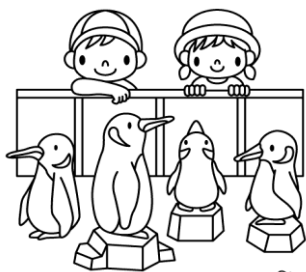
[火]自分の力で生きる人は、弱い人を見下しやすいのです。真の思いやりは、自分が苦しんだり、挫折した時に、主の慰めを頂いた経験を通して生まれます。主の慰めを経験した人こそ、他者を思いやれるのです。慰め主を伝える人は、幸いです。

[水]苦しみの中で、うなだれ、呻くことはありませんか。しかし、その中で神を待ち望むことができるのは、主が十字架の上で、私達のためにうなだれ、罪の苦しみから救い出して下さったからです。主の御顔を仰ぐなら、救いの喜びが与えられます。

[木]災いから救われることを願うだけでは、十分ではありません。主と交わりを求め、主を喜び祝うことです。そうすると、主から喜びと希望が与えられ、苦しむことは災いではなく、感謝に変わります。「神の祭壇に近づく」礼拝者として生きましょう。

[金]イスラエルの民は、主が成し遂げられた御業を子供達に伝えました。それが子供達の信仰を育てたのです。勉強ばかりに気を配ってはいけません。信仰の継承こそ、最高の家庭教育です。そのために、子供と聖書に親しみ、祈りましょう。

[土]王の結婚式で歌われた詩ですが、花婿なるキリストと花嫁なる教会にも当てはまります。主と結ばれた幸せを得たのですから、古い生活から完全に離れることです。そのために、御言葉に「耳を傾けて聞き、そしてよく見」たいものです。



©fumino

	聖書	問題	答え
日	詩編 39:1-14	与えられたこの生涯は 僅か、何ほどのものですか。	
月	40:1-18	主は滅びの穴、泥沼から 私達をどうしてくださいますか。	
火	41:1-14	いかに幸いなことは、弱 いものにどうする人ですか。	
水	42:1-12	何こそ、私の救いですか	
木	43:1-5	何に私は近づき、私の神 を喜び祝いますか。	
金	44:1-27	心に隠していることを神 は必ずどうされますか。	
土	45:1-18	あなたの王権の笏は、何 の笏ですか。	
感想と祈りの課題			